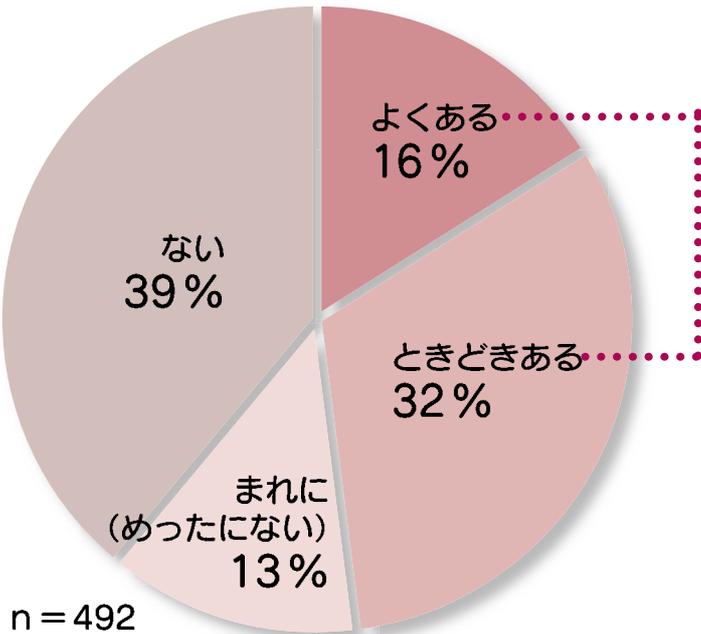
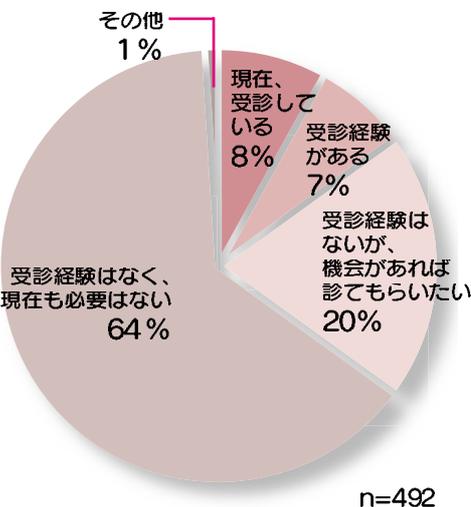


Q. 現在、糖尿病のために大きくストレスを感じ、自分が今、うつではないかと思うことはありますか？



“よくある” “ときどきある” を加えると48%の糖尿病患者さんが大きくストレスを感じ、うつを疑う経験をもっていると回答しました。下のグラフでわかるように、実際の受診者・受診経験者は少ないですが、“機会があれば診察してもらいたい”と思っている患者さんは意外に多いことがわかります。一方で、「糖尿病

Q. 現在、うつで、心療内科や精神科などへ通院していますか？また診察された経験はありますか？ (n=492)



Q. どのような事に対して、大きくストレスを感じたり、悩んだりしていますか？

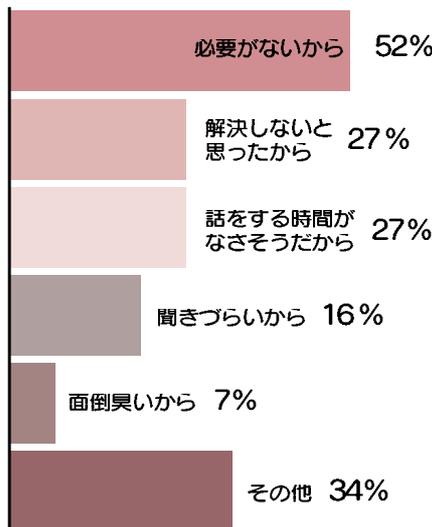
(複数回答可) n=234

食事療法など食へのストレスについて	133名
糖尿病の悪化、合併症発症への不安	131名
治療の継続、血糖コントロールについて	118名
仕事や社会生活について	115名
経済的なこと	102名
家族や友達など人間関係にまつわること	83名
運動療法など、日常の運動習慣について	80名
インスリン療法、SMBGにまつわること	70名
低血糖への不安	55名
薬物療法にまつわること	37名
その他(妊娠・出産、主治医との不仲、不信感等)	10名

たことがある患者さんは全体の5%でした。主治医は相談されたら傾聴するが、治療は専門医へという図式が推測されます。患者さんからは「紹介された臨床心理士や心療内科医が糖尿病のことをよく知らなかった」「定期的に心療内科等の診察が組み込まれると話しやすい」「精神科と密接に連携してほしい」「2つの科に通院するのは時間的にムリ」などの意見も多くみられました。

とうつ」に関する認識は「糖尿糖患者さんはうつを合併することが多い」ことを「知っていた」のは35%。医療スタッフに比べて格段に低いようです。

Q. 相談しないのはどうしてですか？ (複数回答可) n=409



このような中、通院する医療機関での相談経験がある方は全体の13%で、相談しない理由は上のグラフの通り。相談しやすい環境に恵まれていないことが原因の一つとなっているようです。また主治医から、うつ治療のための薬を処方され

コメンテーター

鈴木吉彦 (日本医科大学客員教授・(財)保健同人事業団付属診療所所長)

合併症に対する将来の不安、薬物治療の煩わしさ、食事制限など、糖尿病患者さんは、日々、心理的に追い込まれる状況におかれ、負担を感じる事が多く、そのために、うつ状態になることが多いのは当然です。しかし実際に通院中の患者さんたちは、それを克服していこうという強い意思を持っている人たちです。そして本回答者は積極的にネットで情報をとろうとする意欲のある人たちですから、うつの頻度が低いのかもかもしれません。通院中断例や、治療意欲がわいていない人で統計をとれば、もう少し頻度が増えるかもしれません。